

JICA 留学生が有田川町で持続的農業システムを学ぶ — 覚書に基づき JICA 関西と和歌山大学が連携 —

独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）は、11月6日（日）に国立大学法人和歌山大学（以下、和歌山大学）の協力のもと、JICA 留学生と和歌山大学の学生が和歌山県有田川町の棚田を訪問し、交流を深めながら有田川町の持続的農業システムについて学ぶプログラムを実施します。

これは、JICA 留学生が日本の近代化の歴史や発展を深く知ることを目的とする JICA の「地域理解プログラム」の一環で実施するものです。和歌山県では初めての実施で、日本農業遺産¹に認定されている有田川町の持続的農業システムをテーマにしています。JICA 留学生は、和歌山大学観光学部大浦由美教授による講義と棚田の保全活動を実施している和歌山大学学生による活動紹介・見学を組み合わせたプログラムを通じて、農業の発展と地域文化について深く理解することが期待されています。

プログラムには、関西地域の大学院で学ぶ、アジア・アフリカ・南米出身の JICA 留学生 24 名が参加します。和歌山大学の学生 7 名が、現地で、JICA 留学生に棚田の活動の説明を行い、交流する予定としています。

今回のプログラムは、JICA と和歌山大学が 2022 年 3 月に締結した連携覚書で定められた活動の 1 つです。和歌山の観光分野や日本の歴史・文化とつながりを持った開発途上国の人材育成のため、今回のようなプログラムや交流を通して連携をしていきます。

通訳も同行しますので、ぜひ取材をご検討ください。

（日時、場所）

2022年11月6日（日） ※雨天決行

時間	場所	内容
11:00~12:00	滞在型農村交流施設「あさぎり」 (有田郡有田川町清水 1225-1)	和歌山大学学生による棚田での活動紹介
13:00~14:00		うちわ作り体験を交えて、JICA 留学生と和歌山大学学生との交流 (体験交流工房わらし)
14:10~14:30	あらぎ島 (和歌山県有田郡有田川町清水 1 番地)	棚田見学

¹ 「日本農業遺産」: 社会や環境に適応しながら何世代もわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に一体となった、我が国において重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)であり、農林水産大臣より認定される。和歌山県では、4つの地域が認定を受けている。うち2つ(「聖地高野山と有田上流域を結ぶ持続的農林業システム」と「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」)は令和2年度に認定を受けている。

*JICA 留学生とは

JICAは、開発途上国の国づくりの担い手となる未来のリーダーを日本の大学院（修士課程、博士課程）に留学生として受け入れています。大学での学位課程での専門分野の教育・研修に加え、日本の開発経験（近代化の経験や戦後のドナーとしての知見）について学ぶプログラムを提供。体系的に日本を理解し、帰国後に母国の発展に効果的に役立てもらうことを目的としています。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 開発大学院連携課 花木 仁奈
TEL: 050-1800-2917 e-mail: Hanaki.Nina@jica.go.jp